

防災かわら版

第11号

<防災標語> 【 防災・減災で 守れる命 ここにある 】

令和4年度総会開催される

コロナ禍でやむなく書面開催の経過を経て、7月2日十勝総合振興局講堂で3年ぶりの対面開催を今年度着任された菊地千尋主幹の進行で開催されました。



冒頭、挨拶に立たれた大塚代表は「コロナ禍ではあるが防災意識の高揚と地域連携の強化、併せて会員のスキルアップの必要性」を述べられました。

総会は保前副代表を議長に選出し議題に沿って進められました。

まず、「令和3年度事業報告」が総務部、事業部、研修部の順に報告され、引き続き「令和3年度収支決算及び会計監査報告」が行われた後、全員一致で承認されました。

次に「令和4年度（2022年度）事業計画（案）」が総務部、事業部、研修部の順に、また「令和4年度（2022年度）予算（案）」、並びに広報活動の環境として、「防災かわら版」を発行することが諮られて原案通り承認されました。

「令和4年度事業計画」

【総務部】

〇とちぎ防災マスターネットワークの会計事務全般

〇黄色いシートキャンペーンの参加

〇各部との連携・文書作成・各種対応
【事業部】

〇総会後等の懇親会

〇令和4年度帯広市地域防災訓練の協力

〇オビヒロホコテン

〇令和4年度帯広市冬季防災訓練の協力

【研修部】

〇依頼があった防災研修等への対応・事前研修

〇会員向けの研修会開催

【広報担当】

〇「防災かわら版」の発行



役員紹介

代表 大塚 徹

副代表 保前 明美

副代表兼広報 谷口 栄子

総務部部長 松浦 波雄

副部長 大澤 恵子

研修部部長 佐藤 春雄

副部長 安岡 俊博

事業部部長 樋野 義雄

副部長 久我 佳子

会計監査 丸山 貢

アドバイザー

丸山 貢 末盛 真一

今野 祐子 林原 秀則

目黒 均 沼田 秀実

林 裕美子 安田 愛子

とちぎ防災マスターネットワークは

2008年（平成20年）7月31日に

正式に設立されて今年で丸14年、

令和4年度15周年を迎えました。

総会と合わせて防災研修会が開かれ、当会研修部長の佐藤春雄さんに話いただきました。

「講演」

「コロナ禍でD.O.はぐを行うには」

手法の一例」

佐藤春雄 研修部長

地域の防災マスターとして、参加者（地域住民・児童・生徒等）に、講演内容や防災情報を正しく、分かりやすく伝えるために行うべき事を考えてみる」という観点からコロナ禍における避難所運営を考えた



疑似的に行う「D.O.はぐ」の進め方について、その具体的な手法を手順を追いながらお話しいただきました。

芽室町で行われた避難所開設担当部署と危機対策係に保健師を交えた開設訓練の様子は「コロナ禍における避難開設」はどのようなものになるのか臨場感をもって伝わる内容で感染症対策に必要なトリアージとつとつても、大変な労力が必要になることが示唆されました。



* 令和4年度 活動実績 (7月~10月)

月	日(曜)	活動内容	場所	マスター数	参加数
7	2(土)	令和4年度総会	十勝総合振興局講堂	23名	—名
7	20(水)	音更小学校「宿泊学習」防災学習	足寄町ネイパル足寄	4名	70名
9	11(日)	オビヒロホコテン	帯広市中心街	13名	約100名
9	14(水)	「おびひろ市民学」防災教室	帯広市立緑丘小学校	1名	74名
9	16(金)	十勝管内女性消防団員研修会	よつ葉アリーナ十勝	3名	32名
9	18(日)	帯広市地域防災訓練	よつ葉アリーナ十勝	2名	100名
10	13(木)	防災講話	自立支援センター	1名	約40名
10	15(土)	地域防災マスター認定講習会	めむろ駅前プラザ	2名	39名
10	17(月)	防災学習	音更町立木野東小学校	3名	約100名
10	27(木)	男女共同参画災害対応ワークショップ	とかちプラザ	5名	—名

その他 *役員会 4回開催(4月 5月 8月 10月)

帯広市
地域防災訓練



十勝管内女性消防団員研修会



男女共同参画災害対応
ワークショップ



音更小学校宿泊防災学習
「防災ポリ合羽作り」



「DIG」



活動点描

〈編集後記〉
 発足十五年を向かえた防災ネット
 ワーク。その間、誠に残念ながら活動
 を共にした方々でのご逝去された方が
 数人お出でです。
 それらの方々の想いや遺志なども大
 切にしなから、継続を力にこれから
 も防災・減災活動を前進させていき
 たいものです。

広報担当 谷口榮子

「帯広まちなか歩行者天国」オビヒロホコテン <3年ぶりの開催>



「クイズで防災・減災」



特別寄稿 「災害を考える」

帯広十勝は安心・安全でしょうか？

代表 大塚 徹

私は18歳大学受験時、当時の準急で40時間ほどかけ上京。

修学旅行以来の花の都東京の車窓からの印象は乱立した高層団地からペランダに干した洗濯物、これらの細々とした景色、汚れた空を見て絶対東京には住みたくないと感じた。全くの詰襟学生服に校章帽子をかぶった田舎の高校生でした。

無事大学に合格し、かの神田川を望みながら通学。

まさか絶対東京は嫌だ。その私そのまま東京で結婚し子供二人をもうけて30年も定住するとは夢にも思っていませんでした。

花の東京は空気の悪さ、満員電車通勤の苦しさ、住宅状況の悪さを除けば住んでみると確かに人が集まる魅力に取りつかれます。全国のグルメ、文化、遊園地等のアミューズメント、有名大学等の学究機関、それに医療機関の充実(実際私の住んでいる所には徒歩十数分

故あって49歳のときふるさと帯広にUターン。

私が帯広に戻った時、これでこれらの災害の脅威からようやく開放されるだろうと？ホッとしたのは事実です。

でもすぐにハッと気づかされました。それは帰郷後の元消防長の防災講話でした。

そうです。東京ではありえないマイナス20度厳寒期の災害です。

帯広で1・2月氷点下20度の早朝に大地震が来たら？瓦礫に埋まったら凍傷どころか命が危ない。

その講話を聞いたとき帯広十勝は安心安全だの意識が吹っ飛び、それ以来安心安全はまちづくりの基本とし、防災を一つの柱と致し、私は早速防災士を取得し北海道防災マスターにも登録致しました。

その後阪神、東日本大震災が相次いで起き、各地で台風被災、氾濫、北海道でも胆振地震、暴風雨雪による生活の混乱、被災がありました。

我が帯広十勝の災害危機対策は今迄は10年毎といわれる十勝沖地震を主とした地震対策でした。

が、今ではどうでしょう。胆振地震時のブラックアウト、3年前のいつもは反れると油断？していた重複台風

で大学医学部病院)。

高速道路、新幹線、JRで国内どこでも直行、飛行機でも国内、海外直行とアクセスの良さは抜群で何不自由がありません。

お金があり若さがあればこんな大都会はやはり魅力です。

こんなに何でも魅力的な東京でも、最大の心配事。それは関東大震災のようにやはり大震災に襲われた時です。

いつ高層ビルから落下物が、地下鉄で火災、テロが起きたら(実際私が地下鉄に乗っていたその時にサリン事件が起きました)。台風における浸水、今では新型コロナウイルスの感染症など過密都市ならではの恐怖です。でもやはり一番は過去の関東大震災でも見る大地震の脅威。

元来心配性の私はこの過密都市で満足な生活を送りながらも、これらの災害の脅威をいつも感じていました。

住まいは11階の団地、地下鉄で通勤、通勤先は永田町、何処をとっても何らかの災害があれば、逃げ場もない自分・家族の命も危ない過密都市環境です。

の河川敷浸水被災、大雪など(こ帯広十勝では地震の警戒ばかりではなく、今まではあまり警戒心のなかった全国的災害も意識しなければなくなりました。

そして今は災害と云っていい未曾有の新型コロナウイルス禍です。

災害はもうまさかの坂ではない。誰しも今自分・家族に降りかかるかもしれない事を実感しています。

これらの自然災害に人類はすべてを防ぐことは皆無です。防災意識の向上により自分自身・家族の減災に努める他ありません。

一かじりでも知っていた防災知識が命を助ける事があるかもしれません。

私も微力ながら十勝帯広型災害の防災意識を高め大切な家族・住民を守るため、北海道とちか地域防災マスターネットワーク代表として、今一層住民の防災意識向上、減災に努める毎日を送りたいと思います。

